

「エモーション社内学校」

平成26年3月28日

「備える」「信頼」「責任」

株式会社エモーション

代表取締役 香川湧慈

今年は午年。午年は本来「生む年」の意味がある。

つまり、今まで積み上げて来たもの、準備して来たものが生まれ出る年なのです。

「備える」とは、相応しい振る舞い（「らしく」ということ）を身に付け、自在に発揮できることを言います。

単に準備する。というものではなく、あらゆることに迅速かつ的確に対応する為に、日々の生活態度などを通じて、常に身と心を整えておくことを言うのです。

挨拶や返事など、礼儀礼節を大切にしたり、さり気ない気配り、心配りをする習慣。

一日の終わりに、その日の反省と次の日の準備をすることを続けるなど、備えは誰もが出来る。

まずは、自分が日々続けることである。

知らず知らずの内に触れ合う人達に、その輪が広がって周りの人達が少しずつ備えるようになって行く。

それが家族や会社、あらゆる集団の備えにつながって行くのです。

いざ、という時、慌てず騒がず、適切な判断が出来、

淡々と「やるべき事」が出来るよう備えたい。

「信頼」とは、各々の持ち味や長所を理解し、引き出しながら、
関係を作ること。

お互いを知り、腹を割って話す機会を出来るだけ多く持つこと。

そして、無理して良い関係を作ろうとするのではなく、受け入れる心の
姿勢を保つのです。

自分を作らず、素直な自分が出せれば、お互いを「鏡」として学び合う
ことが出来ます。

そして、それぞれの持ち味や長所を見つけ、活かせることがあれば、
さり気なく配慮する。

その小さな積み重ねが「信頼」を築いて行くのです。

日本人として恥ずかしくない行動を取る。

自分の言動を全て、そこに意識を向けることが一番大事なのです。

「責任」とは、責任の責は責める。任は仕事のこと。

だから、仕事が義務的になってしまう。本来は「積任」である。

これは、やるべき仕事を積み重ねる。ということになります。

やるべき仕事を淡々と積み上げ、重ねて行くこと。

これが本当の「積任を果たす」ということです。

大事なことは、自分のやるべき事が、

確りと「分かっている」こと。

すべての基本は「共通基盤」を持つこと。

だから、経営者というのは、ここに全身全霊を懸けるもの。

社員は、権限が有るとか無いとかに拘わらず、
積任を果たす決意が必要だと思ふのです。

この決意から出て来る行動から、様々な決定に迫られる。

「私なら、こうします。私は、こうしたいと思ひます。」

という提案をすることが大切です。

社員は、目標が達成されなくても、事柄に失敗しても「責任」は負わなくてもよいが、方針不実施や与えられた権限を使わなかつた責任が追及されます。

社員の「積任」とは「方針を忠実に実行し目的に向かつて積極的に邁進する。」という積任です。

任された者は、その範囲内での行動の自由、時間の自由、経費の自由を保証され、充分に使い遂行すること。

一所懸命さ故、少し範囲を逸脱するのはOK。

逸脱するというのは、その人により大きな権限が必要だからです。

だから、社員が「積任を果たす」為に、必要なものは権限でなく、

何としてもやり抜くぞ！という「意欲」「責任感」「気迫」なのです。

一つの目的に向かつて、各々が徹底して力を注いでいる姿が「和」です。

それには、お互い同士が尊敬し合えていなければ、和は成し得ません。

どうやって実践するか。それは報告も連絡も相談も、全部ひっくるめて考え合うこと。

お互いの真心を釣り合わすことでしか、出来得ないと思ひます。

仲良しチームではない。一人一人の仕事を徹底して貫くことで、協力し合うのが「和」なのです。

「伝える」ということをキチンとすることが、生きる目的だと思うのです。これが「道」に成るのです。

「自発的意志」が無ければ、生きる意味がなく、人に伝えることは出来ない。

発信するなら、命懸けでやらないと意味が無いのです。

本人の経験を以って、本人の人格を以っての命懸けの発信が大事で大切。

人が人の人格を判断するのは、その人の「責任感」を見ているものです。

だから、人生論を語るのではなく、自分の人生を語ること。

経営者は、経営論を語るのではなく、経営を語ること。